

幼子とともに

2024 年度 10月号

はじめに

寒暖差が激しい季節となりました。子どもたちにとっては、体調管理が難しい時期でもあると思われますが、子どもたちは、元気に幼稚園で遊んでいます。運動会の時期であるため、体操をしたり、跳び箱を飛んだり、体を大きく使う様子が見受けられます。神様から与えられた命を自由に使って遊ぶ姿は、とても、愛らしく感じています。

暑さも、徐々に和らぎつつある昨今、この時期でしか味わえない色々なイベントごと各学年で計画されると思います。一つ一つが、子どもたちにとって大切な体験です。そして、この体験が経験に変わり、知恵や知識へと育まれます。子どもたちの将来に思いを馳せながら、この一か月間も、楽しい、嬉しいを積み上げる日々を過ごして参りたいと思います。

運動会練習の経過からみる子どもの育ち

運動会の季節となりました。子どもたちは毎日、運動会に向けて、一生懸命に練習をしています。越谷幼稚園の素晴らしいところは、子どもたちが、お友達を一生懸命に応援する姿です。時より先生に促されて応援をするお子様もいますが、多くは自発的に応援をします。失敗したお友達に対して、責める言葉をかけたり、批判的な言葉をかけたりすることはなく、むしろ、応援や声援を掛け合う姿が、とても印象的でした。

運動会は、目に見える形で「できる・できない」が顕れ出る行事です。それ故に、失敗が目立ち、場合によっては自信を奪うことも起こりえます。お友達同士で責め合ってしまうことも起こるかもしれません。しかし、越谷幼稚園の子どもたちは、転んでも立ちあがりますし、失敗したお友達を責めるよりも、応援をします。みんなが、みんなの個性を受け入れ合い、声を掛け合います。先生方もまた、それぞれの子どもの思いに寄り添いながら、声をかけています。

私は、これこそが、インクルーシブ教育であると思いました。最近は、インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン保育などのすべての人（多様性）を包括的に受け入れるための教育ワードがよく使われますが、実際には、十分に機能を果たしていないとせずにはいられません。なぜなら、それらは大人だけが主張しているからです。

本当の意味で、包括的な教育環境を作ろうと思うならば、大人だけではなく、そこにいる子どもたちが、その理念を理解しておかなければ意味がないと思うのです。越谷幼稚園の子どもたちは、お互いに、お互いの特性や個性を受け入れ合います。勿論、すぐにそれを受け入れるわけではありません。日々の遊びの中で、それが自然と身についているのです。越谷幼稚園の自由遊びの時間は、みんなが点々と違う遊びをしているようで、実は、一緒に遊んでいるのです。そして、遊びを通して、時には衝突をしたり、時には、一緒に楽しんだり、時には、譲り合ったり、時には傷を負ったりなどを繰り返しながら、信頼関係や仲間意識を深めていきます。その結果、子どもたちは、それぞれの個性を受け入れ合っていく関係性を作り上げていくのです。言い換えるならば、子どもたちが、大人の先頭に立って、包括的環境を遊びの中で作り出していると言えるのです(o^ー^o)

小学校教育に新しい光を

近年、教育現場で課題となっているのが、小学校との接続です。私は今年度夏に、保幼小接続にまつわる研

修に二度ほど参加をしました。そこで感じさせられたのは、幼児教育・保育と小学校との溝の深さでありました。文科省がすすめる、就学前までに育てたい10の姿は、幼稚園・保育園を小学校へと歩み寄らせる内容であると言えます。同時に、小学校もまた、遊びを取り入れた授業展開に努めているようです。

しかし、実際に、保幼小接続にかかる期間は、最低でも、2年生までかかると言われていています。つまり、小学校入学から少なくとも二年間は、幼稚園や保育園のカリキュラムに合わせた小学校教育をすべきなのです。けれども実態としては、求められる教科の数や内容の量によって、幼児教育特有（近年、保育園・保育所も遊びを中心に据えるところが増えました）の遊びが潰えてしまうのが現状なのです。そのため、休み時間が減り、子どもたちに余裕が生まれず、自信や安心の中で、主体的に学ぶことに難しさを感じる児童も増えてきていると言われています。

この課題は、日本の教育が認識を変えなければ難しいと言えます。ただ、この幼少期において、十分に子どもたちに愛を注ぎ、自由を与え、自分の存在を肯定しながら、次のステップを踏んでほしいと心から願っています。自由保育は、決して、放任する教育方法ではありません。子どもたちの主体性を育て、想像性を広げる教育でもあります。これからの将来、ほとんどがAIで解決できる時代にあって、今の子どもたちには、彼ら・彼女らにしかできない賜物を活かして、与えられた人生を楽しく過ごしてほしいと思うのです。そのために、教会や幼稚園は、いつでも、子どもたちのラストスタンド（最後の居場所・砦）であり続けたいと思うのです。

存在を認める

私達は、失敗を恐れます。何もしていないのに、失敗することをイメージし、何もできない時もあります。失敗をすれば恥をかきます。自分を責めます。しかし、何もしなければ失敗は生まれません。何もしなければ経験値も増えませんが、失敗は、経験という財産を生むのです。だから、何も無駄にはならないのです。

大切なことは、まず、取り組んだことを肯定的に認めることです。「頑張ったね。」「一生懸命のあなたは、とても素敵だった。」このように存在を認めることで、失敗した自分を諦めないでいてくれる存在を知ることができます。すると、もう一度、やってみようという気持ちへと向かうことが出来ます。失敗を許さないと、失敗ができないという気持ちになり、失敗するかもしれないから「やらない」という感情を造りやすくなってしまいうのです。運動会を控え、私達は、より一層、子どもたちの存在に価値を生み出していく姿が問われていくように思うのです。

園長 須賀 工

栄養士だより

《栄養・運動・睡眠》

長かった暑い日々を過ごし、やっと過ごしやすくなりました。うんどうかいを目前に、お友だちと一緒に身体を動かし元気いっぱいの子どもたちです。この時期には、十分に水分補給をしながら、さらに紫外線に注意しつつ、戸外で思いっきり過ごしてほしいです。そして運動をするのには、身体を動かすためのエネルギーが必要です。朝食にはエネルギーの源となる炭水化物(おにぎりやバナナなど消化の良いものが適しています。)筋肉や血液をつくるたんぱく質をしっかり摂るようにしましょう。

栄養バランスのとれた食事と適度な運動と十分な睡眠を心がけながら、しっかりと身体を動かす事で、病気に負けない体づくりを目指していきましょう。大人も子どもも健康への道は、《栄養・運動・睡眠(プラス笑顔かな！)》

何か不明点などありましたら、どうぞお気軽にお問合せください。お待ちしております。

いけだ かずみ